

・山域・山名 ; 四国(徳島、愛媛)の山 ; ①剣山(1954.7m)、②石鎚山(1982m)  
 ・期間(年月日) ; 2014.7.28(月)~8.2(日) (5泊6日) ・目的/方法 ; 四国の山巡り/ラッシュ ・参加者 L; 渡辺勝利 M; 渡辺育三

<行動記録>

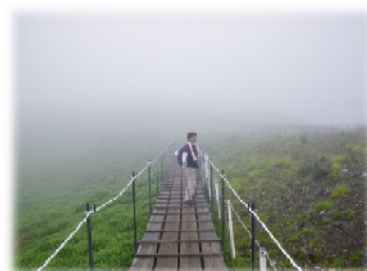
日付/天候	コースタイム	行 動 記 録	累計走行距離km
7/28(月)晴れ~7/29(火)晴れ;移動日		豊田自宅発(19:00)→湾岸自動車道→東名阪自動車道→新名神自動車道→名神高速道→中国自動車道→山陽自動車道→神戸淡路鳴門自動車道(淡路SA仮眠)→徳島自動車道→一般国道経由→見ノ越着(19:00)	443.8
7/30(水) 晴	5:15 起床 6:45 見ノ越発 8:00 西島(大剣道コース) 9:10~40 剣山頂上 10:20 二の森 10:30~35 行場分岐 10:50~11:00 一の森ヒュッテ 11:15 一の森頂上 11:25 行場分岐 12:00 穴吹川、滝 12:50 刀掛けの松 13:10 西島 14:05~30 見ノ越 15:30~16:00 祖谷 案山子の里 17:30 大歩危(ホテル泊) 20:00 就寝	<p>昨夜の車中泊は快適であった。寝る方向を逆向きにしたら背中が床のフラット面になっただけのことではあった我々にとっては大きな改善であった。夜の間に数台の車が駐車していたがそれでも静かな朝を迎えた。カップ麺とコーヒーの朝食を済ませる。西島までは登山リフトで行く予定であったが、ここは剣山に敬意を表して機動力を使わず、全コースを歩くことにして出発。駐車場から少し下った剣神社で参拝した後、人の姿のないよく整備された鳥の鳴き声のみが聞こえる静かな道を辿る。登山リフトのトンネルを潜る頃から苔むしたブナの大木が目立つようになる。いかにも霊山の雰囲気を感じるのは遠く四国の地まで来たと言う感傷だろうか。アザミの写真を撮ったりしながらポレポレ速度で登山リフトの終点駅の西島へ着く。ここから剣山へのルートは三本あるが我々は年齢相応の大剣道コースを取る。ルートは割合平坦で歩き易く、所どころに咲く花を愛でながら全く貸切り状態の静かなたたずまいの中を辿るといつの間にかヒュッテに着く。ここを素通りして木道を辿れば一等三角点の頂上は近い。ガスが湧き眺望は全く利かないものの、とりあえず百名山の一つである剣山の登頂を果たし握手を交わす。ガスで眺望の全く利かない静かな山頂を楽しんでいると数組の登山者が登って来て、ちょっと賑やかになってきた。どうやら我々が一番乗りだったらしい。</p> <p>何とかガスが切れないものかとしばらく粘ってみたもののその気配は全くなさそうなので、一の森経由で下山することにした。一の森へもなだらかな尾根道が続き、一の森ヒュッテから三角点、頂上を経由して行者分岐に戻りこの山最大のお目当てのキレンゲショウマの群落を見るべく刀掛けへ向かうが、やたら看板は見かけるものの花そのものは全く見当たらない。一眼レフをぶら下げた人もルート上をうろろしているばかり。結局、一本の花も見つけることが出来ず、この花に詳しい常連客の話では「今年の開花は一週間遅れている」とのことで満開時はルートが一方通行になるくらい賑わうらしい。満開の予想は見事に外れ、眺望も全く得られなかった剣山にやや不完全燃焼の気持ちを抱きつつ四国の百名山の一座目の登山活動を終えた。</p> <p>その後、R438~439を経て東祖谷の案山子の里で交流した後、大歩危に出て宿泊(サンリバー大歩危)</p>	500.0



西島から大剣コースに入る



クガイソウ



頂上木道



剣山頂上

一陣の風吹き渡る剣山巨木の中を辿る山道

7/31(木)晴れ;移動日	大歩危発(9:00)→一般国道→徳島自動車道→松山自動車道→一般国道→石鎚山山特駐車場→ロープウェイ→中宮成就社玉屋旅館着(17:00)	655.2
---------------	--	-------

8/1(金)	4:45	起床
曇り後雨	5:25	中宮成就社(玉屋)発
	5:35	八丁坂鞍部
	6:45	試しの鎖基部
	7:10	一軒茶屋
	7:35	夜明峠
	7:50	避難小屋
	8:00	一の鎖基部
	8:40	二の鎖基部
	9:10~40	石鎚山(弥山)
	11:15	試しの鎖基部
	12:30~50	中宮成就社(玉屋)
	13:05~20	ロープウェイ山頂成就駅
	13:35	ロープウェイ下谷P
	15:30	道後温泉(ホテル泊)

雨を心配して夜中になんども外を見たが、どうやら今は曇ってはいるが安定しているようだ。我々の速度でも出来だけ午前中に目途がつくようにと早や発ちする。成就社の山門をくぐり抜け八丁坂を下り鞍部に出る。ここからはブナやクヌギの雑木林の急斜面を登ると、さらに間伐材で作られた階段(ステップが小さいので助かるが)が続く。相変わらず貸切り状態なのでマイペースで歩けるのが嬉しい。しばらく階段を登ると試しの鎖の基部に着く。岩場に二列の大きな鎖がぶら下がっているがここに来て登らない手はない。相棒は最初から捲き道に行くことを決めているらしく、ここで分かれ一人だけの挑戦となる。岩壁はホールド、スタンスともしっかりしている上に鎖というフィックスロープもあるのでなんら恐れることはない。若い現役の頃、岩登りをやった感覚を懐かしく思い出しながら三点支持基本を守って楽しく登る。岩壁を登りきって前社森の岩峰に立つと本来ならば展望はよさそうだが、今日はガスっているし風も強いので早々に下る。下る壁も鎖場になっており、アップザイレンの要領でコルに下りる。ここには一軒茶と称する無人小屋があり、繁忙期には売店にもなるらしいが今はなにもない。相棒はすでに捲き道から到着して待っていてくれたが誰かと話しをしている。顔を見ると玉屋旅館のアルバイトのD君で彼は我々よりもずいぶん先に出発し、下山中に偶然遭遇したものらしい。首からほら貝をぶら下げているので吹いてみてくれと頼むと心よく朗々とした音を響かせてくれた。彼とは玉屋での再会を約し、ほら貝に元気つけられ、さらに歩を進め夜明一の鎖場に至る。この壁は相棒も登る気になっているので、下から確保できるようにトップを任せるが恐れを知らぬように造作もなく登って行く姿は実に頼もしい限りだ。さらにこれに味を占めたように長い二の鎖も難なくこなしたあ三の鎖は工事中のため階段や崖の上に掛けられた迂回路を通る頃にはガスは益々濃さを増して横に流れ、風も強くなってきた。弥山に着くと暴風並みの猛烈な風とホワイトアウト状態の視界となり、本来ならば見えるはずの天狗岳は全く見えない。社の陰に身を寄せて風を避けるのが精いっぱい。奥宮頂上社で西条市からの登頂記念品貰い、お札を受け、禰宜さんに記念写真を撮ってもらうのもそこそこに天狗岳を諦め下山に移る。弥山を下るとあれほど吹きまくっていた風も穏やかになり、鎖場は全て捲き道を通りあちこちで寄り道しながら成就社玉屋旅館に帰り着きおかみさんの出迎えを受ける。一休みした後、一時置きしていた荷物を受け取り、小雨のばら始めた成就社からロープウェイ山頂成就駅まで一気に駆け下り、登山活動を無事に終了した。

松山自動車道経由で道後温泉に着く頃には土砂降りの雨になっていた。

715.2



長い階段



二の鎖を登る



弥山奥宮頂上社



中宮成就社山門

**轟轟と風吹き渡る石鎚の山頂全てガスの中なり**

8/2(土)曇り;移動日	道後温泉発(9:00)→一般国道→西瀬戸自動車道(しまなみ海道)→山陽自動車道→ここからは往路と同じ→自宅着(23:50)	1245.7
--------------	---	--------

#### <総括>

恒例の家族の夏山登山は未だ踏み入れたことのない四国の百名山二座を登ることを計画したが、身の丈にあった難度も歩行距離も時間も手頃で日帰り登山ができるという点が選定の大きな決め手であった。結果的には、全日天候も曇りでガスが湧くという冷却効果も功を奏して、石鎚山の最高点へは行けなかったものの無事に登山活動を終えることができた。相棒の観光地巡りも計算通りで、洲本城址、渦潮観光、一番札所竺和山霊山寺、案山子村、大歩危、松山市内観光など存分に楽しむことができた。8月3日からは台風11号の影響で四国地方には豪雨が降り続き、大変な被害も出たようだがその前に帰豊できたのはラッキーだった。